

INTER KYOTO

インターキョウト

2005.1.30 No.24

社団法人京都府情報産業協会
発行：広報委員会

新春特別対談

京都府の情報産業発展に向けて高まる期待

新年明けましておめでとうございます。当協会が設立5年目を迎える今年の年頭を飾り、京都府中小企業総合センター高嶋副所長と当協会植田会長に、京都府の中小企業に対する情報化の問題や情報産業の役割などについて対談いただきました。

対談者

高嶋 学氏（京都府中小企業総合センター副所長）

植田 弘毅氏（社団法人京都府情報産業協会 会長）



中小企業のニーズを吸収して 有効なIT活用を提案

高嶋 京都府情報産業協会の皆様、新年明けましておめでとうございます。昨年は、京都府とりわけ当センターとともに京都府内の情報化の推進にご尽力いただき、ありがとうございます。さて、京都府内の事業所の数はおよそ14万事業所あります。そのほとんどが中小・零細企業です。私どもに寄せられた皆様のご意見をお伺いしていると、「ITをどのように導入していいかわからない」「情報化投資の効果がどれだけあるのか」「セキュリティは大丈夫か」など、多種多様な不安を持っておられるのが分かります。業界や企業規模によって、ニーズは異なると思いますが、それぞれにターゲットを絞りながら、有効なIT活用・施策を提案していく必要がありそうですね。

植田 新年明けましておめでとうございます。今年の4月で京都府情報産業協会が公益法人化されて、丸4年が経

過します。その間、「府民生活の向上」「府内地域産業の情報化促進」等を目標に掲げて、さまざまな事業に取り組んできました。特に、プライバシーマークやISO認証の取得、今年4月から施行される個人情報保護法への対応など、京都府中小企業総合センター様をはじめ(財)京都産業21や京都市の関連団体のご支援をいただいて情報技術に関する共同フォーラムや研究会を開催することで、会員企業や中小企業の体力づくりに一定の成果を上げることができたと思います。

中小・零細企業の情報化について、ITは経営革新の万能薬のように言われますが、あくまで「企業をよみがえらせるには何が必要か」という議論が本筋であって、ITはそれを実現するための手段に過ぎないと考えています。そこで、我々の協会を一つの事業体と考えたとき、最も欠落しているのは、営業機能、即ち顧客である京都府民であり、中小企業の市場ニーズをどのように吸い上げるかということだと思います。これには行政関連諸機関の皆様と連携という形でご支

援を期待しているわけで、例えば、経営ノウハウや知識を持った専門家と我々の協会、そして課題を抱えている中小企業との橋渡し役を京都府中小企業総合センター様に期待したいと思っています。

高嶋 私どもセンターでは、月4～5回、約1万6千部のメールマガジンを発行しているのをはじめ、センター業務が分かりやすく活用しやすいホームページを開設して、各種施策の情報提供や中小企業のニーズ吸収に努めています。また、昨今、だれもが手軽に利用でき、容易に発展させることが可能なオープンソースのOSとして、新たにLinuxが注目を集めています。私たちは、その仕組みや企業の活用事例の紹介、システム構築の研究会などを通して、企業の新事業展開を支援しているほか、IT導入サポート、コンサルティングなどにも積極的に取り組んでいます。特に、ホームページについては、4月から11月の間のアクセス数が145万件で、大変好評をいただいているようです。今後も、京都府情報産業協会の皆さんと協力しながら、中小企業の活性化に寄与していきたいと考えています。

情報格差の解決に向けて 産学公一体の基盤整備

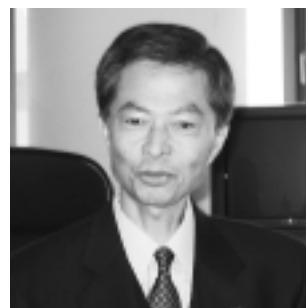


植田会長

植田 IT活用の重要性がますます高まっていますが、ITを導入してどのような成果が得られたかという成功事例をデータベース化することが中小・零細企業の皆さんには分かりやすいと思います。例えば、北海道のある中小企業では、冬の時期になると暖房器具のメンテナンスの注文が増えるそうですが、機種によってメンテナンスの方法が異なるので、電話注文を受けて機種を特定するまでに非常に時間がかかります。しかし、顧客のデータベースを活用することで、交換部品の有無や修理代金などが一目で分かるようになり、修理訪問の手違いも皆無になって、経営効率は飛躍的に向上したそうです。一口に顧客データベースと言っても企業によって効果は全く違います。IT導入のメリットを明確にすることで、中小企業の皆さんの情報化意識も高まるのではないのでしょうか。

高嶋 ITをうまく活用して、顧客管理や在庫管理、受発注システムに生かしている中小企業も京都には多いです。中小企業のニーズやITの導入段階に合わせた最適な道筋を示すことで、ビジネスチャンスを広げる手助けを行うことができると思います。21世紀の新しい総合計画のテーマとして、私たちは「むすびあい、ともにひらく新世紀・京都」

を掲げています。情報網や道路交通網をさらに発展させながら、人間と人間、地域と地域、これをしっかりと結んでいきたいと考えています。京都府としては、産業や教育、医療福祉など様々な分野で、企業や府民の皆様が交流連携を深めて



高嶋副所長

いただくための基盤整備として、「京都デジタル疎水ネットワーク」の整備や「京都ITバザール構想」の推進など、産学公が一体となった基盤整備に努めています。そのほか、電子政府の基盤となる総合行政ネットワークへの対応など、植田会長がおっしゃったように、具体的に目に見える形でIT活用のメリットを提案したいと考えています。

京都の特質を生かして、 府内情報産業の発展に寄与

植田 21世紀のユビキタス時代を迎えて、京都府情報産業協会が果たす役割はますます重要になってきます。これまで、京都府中小企業総合センター様をはじめ、関係諸機関と連携しながら、各種オープンフォーラムやセミナーなどに取り組んできましたが、今後はさらに私たちが活躍する場を広げていきたいと考えています。地域産業界が抱える諸課題のとりまとめや事業成果・研究調査の発信、そして高齢者や障害者のアクセスビリティの向上、デジタルデバイド（情報格差）の改善などについても努力していきたいですね。

高嶋 おっしゃるとおりですね。私どもでは、ITをできるだけ具体的なものづくりに結びつけようと、今年1月から当センターで「ものづくり企業ITマネジメント研究会」を開催しているほか、京都府としても外国人観光客に地域情報を提供する「観光都市KYOTOケータイサポート計画」など各種事業を推進しています。ぜひ、こうした取り組みについても、京都府情報産業協会様のご協力を得ながら、具体的な成果を導き出していきたいと思っています。そのためにも協会の皆様方が連携を一層深められ、さらに発展いただくことをご期待いたします。

植田 京都は情報化技術が集積する地であり、ハード面だけでなく、ユーザー要求に応えるソフトウェアの開発など、さまざまなビジネスチャンスが埋もれています。こうした京都ならではの特質を生かして、府内情報産業のさらなる発展を目指してまいりますので、我々の協会の営業機能の補完にぜひご支援・ご協力をお願い申し上げます。

(2004年12月9日 京都府中小企業総合センター 副所長室にて)

ケータイ国際フォーラム 訪中団レポート

前事務局長 須磨 光

平成16年11月1日～6日の6日間、第4回ケータイ国際フォーラムの訪中団として、麻生純副知事を団長に、オムロン(株)立石義雄会長を副団長に、約150名余りのメンバーが組成され、京情協の会員企業も(株)トーセ、京都電子計算(株)、(株)京信システムサービス、(株)島津ビジネスシステムズ、京都コンピュータ学院・京都情報大学院大学などがその一員として、参加してきました。

ケータイ国際フォーラムは、第3回目まで京都において開催され、携帯電話のみならずモバイル通信のすべてを含めた中で、「アジアとケータイ」をテーマにした、日本最大級のケータイ総合イベントです。今回は、中国の中でも、天津市がケータイ関連産業の集積地として際立っていることから、天津経済技術開発区管理委員会の方から、特に強い要請があり、初めて海外（中国）で開催されることになりました。

今回のミッションは大きく分けると2つあります。1つは、天津市で11月2日・3日に開催された第4回ケータイ国際フォーラムと展示会。2つは、北京市で11月5日に開催された第1回日中産学公連携ミーティングです。

天津市では、2日に展示会の開幕式を挙げる。その後、会場を移して、パネルディスカッションが行われ、天津市と京都府の産学公の代表者による意見交換が進められるなど、将来の連携に向けた機運が芽生えているようでした。この後、ケータイ国際フォーラム推進会議（麻生副知事）と天津経済技術開発区管理委員会（李主任）との間で、提携のための調印が行なわれました。翌3日は、ビジネスミーティングが行なわれ、日中相互の産業界が交流を深めるべく、熱心な企業誘致が繰り返されました。

北京市では、北京大学において、4時間にわたる産学公連携ミーティングが行なわれました。この中で、関西文化学術研究都市推進機構と、中国最大規模のサイエンスパーク



ビジネスミーティング中の京情協関係者

拠点である中関村科学技術園区管理委員会との間で、交流協定が合意されました。今後の成果が待たれるものです。

以上のように公式行事がほとんどで、息抜く間もないほどでしたが、最終日が唯一のフリータイムで、参加者の希望で急きょ企画し、ほとんどの方が、万里の長城ツアーに参加され、素晴らしい青空の下で、気分よく満喫してまいりました。

また、日ごろ会えない方々との交流があり、団長の麻生副知事はなかなか好奇心旺盛で、変わった食材を買って、自宅で料理に挑戦してみようということでしたし、立石会長は、訪中団の初日が誕生日で、急きょ誕生日パーティが企画され、素の会長を知る機会となり、その人となり垣間見ることができました。また、そのほかにもたくさんの人と仕事以外の生の交流が始まり、大変有意義な訪中となりました。

しかし、中国は、日本の我々と考え方に相当な違いがあるように思いました。日本が、あまりにもシステムティックに動き過ぎているのかもしれませんが、どちらが良いのか、

判断の分かれるところです。視察した限りでは、例えば交通に関して、車も人も規則があるのかないのか、行動の中に規律があるのかないのか、何でもありの感じがしました。

しかし、一面を見ただけなので、誤解があるかもしれませんし、まずはお互いを知り合うことから始めなければならないことも感じてまいりました。今後もこのような経済交流には、国の内外を問わず、京情協として、積極的に関与していくことが大切であることを感じて、訪中レポートといたします。



産学公連携国際フォーラム会場にて（北京大学）



開幕式で挨拶される麻生団長（右隣は立石副団長）

新春セミナー・賀詞交歓会 報告

講師の
藤田信之氏

去る1月13日、アテネオリンピックの女子マラソンで金メダルに輝いた野口みずき選手を発掘、育てられた藤田信之監督（グローバリー株）をお招きし、「狙い澄ましたアテネ五輪金メダル」をテーマに新春セミナーが開催されました（主催：京情協/京都府中小企業総合センター）。「決して派手さはないが、ひたむきに練習する野口選手の姿を見て、一緒に五輪を目指そうと決心した」と藤田監督。「才能を開花させるのは、世界一になるんだという情熱」という言葉から、指導者としての姿勢が伝わってきました。新春にふさわしい力強い講演内容で、会場を訪れた約160名の参加者は熱心に聞き入っていました。引き

続いて、新春恒例の賀詞交歓会が行われ、京情協会員同士の親睦を深めました。



人材育成の
コツを披露

「経済産業省情報化月間協賛・京都情報化フォーラム」開催報告

技術委員会

- 開催日時 平成16年10月15日(金)15:00~17:00
- 場所 平安会館
- テーマ 「家庭内電力線を利用した高速電力線通信(PLC)の可能性を探る」
- 講師 関西電力(株) 経営改革・IT本部 チーフマネジャー 谷岡 匠氏
- 参加者 80名(会員46名、会員外34名)

10月の経済産業省情報化月間協賛行事として、『家庭内電力線を利用した高速電力線通信(PLC)』についてのオープンフォーラムを開催しました。講師の谷岡氏は、「PLCを利用すると、最も経済的で簡単なホームネットワークの構築が実現できる。ユビキタス社会の本格的な到来に向けて、家庭内のあらゆるデジタル情報家電に応用されることが期待されている」と将来の展望について説明。そ



講師の谷岡 匠氏

会員外からも多数の企業が参加

他、「PLC高速化の条件」、「海外での高速PLCの適用状況」、「高速PLC適用に向けた課題と技術開発」、「国内外のPLC製品」など、まさしく次世代の高速電力線通信の幕開けを身近に感じさせる講演内容でした。

西安ソフトウェアパーク ビジネスミーティングが開催されました



昨年12月3日、訪日中の西安高新技术産業開発区管理委員会（西安高新区訪日団）より、西安ソフトウェアパークの袁旺家副主任と李彤マネージャーが京都府情報産業協会を訪問されました。当協会から植田会長以下9名が参加し、ソフトウェア産業の日中交流を目的としたビジネスミーティングが開催されました。

李マネージャーと袁副主任

協会だより

正会員 54社
特別会員 1名
賛助会員 6社

事業推進委員の積極的な会員増強運動により
成果を得ることができました。
会員の皆様も入会紹介、勧誘にご協力下さい。



第7回 親睦ボウリング大会を開催

平成16年11月12日、第7回親睦ボウリング大会がMKボウル上賀茂で開催され、27チーム81名の参加者が熱戦を展開しました。今年は、例年にも増して高レベルな優勝争いが繰り広げられましたが、真剣勝負の一方で、メンバー同士、企業同士の親睦交流が積極的に図られました。

団体の部

優勝	(株)近畿リサーチセンターB	991点
準優勝	オムロンソフトウェア(株)A	986点
3位	京都電子計算(株)B	935点

個人の部

優勝	山口 尚輝	374点 (オムロンソフトウェア(株)A)
準優勝	長谷川幸子	371点 (京都電子計算(株)B)
3位	西川 順之	368点 (株)近畿リサーチセンターB)

団体優勝 喜びの声

浅尾幹治さん やりました！やっと念願の優勝です！
第1回大会より虎視眈々と3位内入賞を狙っていたのですが、いつも参加賞だけをいただいて帰る結果となっていました。しかし、今回はチームの若い2人が頑張ってくれたため、最高の賞をいただくことができました。



西川順之さん 今回で3度目の出場でしたので、今回こそはチーム・個人とも3位内入賞を目指していましたが、チーム優勝することができ、皆さんに近畿リサーチセンターを知っていただけたかなと思っています。次回は個人優勝を目指します！団体はもちろん連覇させていただきます！！

大森秀幸さん 大会前から仕事帰りにひそかに練習を重ね、大会直前にはマイボールを購入して大会に備えました。チームに恵まれて、とてもラッキーでした。また優勝できるように、練習を重ねマイシューズも購入したいと思っています。

個人優勝 喜びの声

山口尚輝さん 総合システムさんとオムロンソフトウェアの二強体制を崩そうと、他の会社の方も虎視眈々と優勝を狙っているとお話を伺いました。今後の大会でも新たなライバルがたくさん出てくると思うと、またボウリング大会に参加する楽しみが増えました。今後も皆様との交流が続いていくことを願っています。喜びの挨拶に代えさせていただきます。

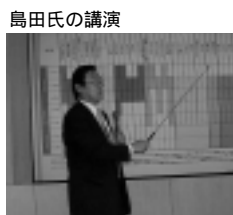


「経営研究会」開催報告

経営委員会

第3回

開催日時 平成16年10月21日(木) 14:00~16:00
場所 京都高度技術研究所10階 プレゼンテーションルーム
テーマ ITスキル標準の導入 実践編
講師 独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA)
ITスキル標準センター研究員 島田 高司氏
参加者 28名



講演を熱心に聞く参加者

ITスキル標準(11職種、38専門分野)は2002年12月に公開されて以降、業界へは順次浸透しています。その後のIPAによる普及活動経過などを含め、導入企業におけるITスキル研修の実践編として各種課題について解説がありました。今後の人材スキルアップ策の参考になるセミナーでした。

第4回

開催日時 平成16年11月18日(木) 17:30~19:00
場所 京都商工会議所 地下セミナールーム
テーマ 職場管理のメンタルヘルス
講師 滋賀女子短期大学講師
臨床心理士・認定心理士 早川 滋人氏
参加者 29名

早川先生の講演



IT関連業界において、最近特に関心の高い「うつ病」など「メンタルヘルス」に焦点をあて、専門家の先生から職場の管理対応策などについてご指導をいただきました。うつ病は脳の病気であり、必ず治るとのことです。最後の質疑応答コーナーでは、30分余りにわたって各社から多岐にわたる質問があり、有意義な研究会となりました。



講演を熱心に聞く参加者

「SE研究会」開催報告

技術委員会

今年度の「SE研究会」の取り組みとして、『SE交流会』をさらに充実させた内容とし、「品質」「開発効率」「情報セキュリティ」「新技術」の4つの研究会テーマを設け、昨年10月～1月の4ヶ月間で各々4回開催いたしました。技術委員会委員を世話役として各研究会参加者の間で各回のテーマに応じた取り組みへの提案や課題について討議が行われ、参加したからには何らかの成果を得ようとする雰囲気の研究會でした。各々の研究会ごとその成果を取りまとめ、合同の研究會の発表計画を練っています。

今後とも会員の皆様の積極的な参加をお願いします。

(京情協 事務局会議室にて)



テーマに応じて活発な討議を展開

お知らせ

平成16年度 技術セミナー 開催

日時: 平成17年2月10日(木) 午後2時～5時
場所: 平安会館(京都市上京区烏丸通上長者町上ル)
テーマ: 「ソフトウェアの特許を考える」
講師:
 [第1部] (株)島津製作所 知的財産部
 弁理士・パテントマネージャー 江口裕之氏
 [第2部] (株)島津総合科学研究所 特許グループ
 プロダクトマネージャー 川末繁雄氏
定員: 約100名
参加料: 無料
お申込み方法:

会社・団体名、役職名、氏名、連絡先を明記の上、平成17年2月3日(木)までに
 (社)京都府情報産業協会事務局宛
 E-mail jimukyoku@kyojyokyo.or.jp
 またはFAX(075-693-6089)
 にてお申し込み下さい。

なお、先着順とさせていただきます、定員100名後はお申込みでお断りする場合を除き、別段のご連絡は致しませんので直接会場へお越し下さい。

主催 (社)京都府情報産業協会 / 京都府中小企業総合センター
 講演 (財)京都産業21

平成16年度 第2回通常総会・懇親会 開催

日時: 平成17年3月29日(火) 午後4時～
場所: 平安会館(京都市上京区烏丸通上長者町上ル)

編集後記 新春号恒例となりました新春対談をはじめ、盛りだくさんの内容で24号を発行しました。いかがでしょうか。ところで皆様は、京情協のホームページがリニューアルしたのをご存知ですか。ぜひご活用いただき、アピールもよろしくをお願いします。http://www.kyojyokyo.or.jp

APRICOT 2005 KYOTO 開催

インターネット社会の最新動向を探るアジア・太平洋地域では最高峰に位置する国際会議が開催されます(京都府情報産業協会も後援しています)。

日時: 平成17年2月16日(水)～25日(金) 8日間
場所: 国立京都国際会館

詳細はホームページをご覧ください。

http://www.2005.apricot.net/ja/



府民セミナー(京都・APRICOT連携イベント)

日時: 平成17年2月20日(日) 午後1時～5時
場所: 国立京都国際会館2階 RoomB-2
 (京都市左京区宝ヶ池)
テーマ: 「ユビキタス社会の到来と私たちの暮らし、しごと、まち」

(株)京都ソフトウェアリサーチの長澤恒也氏が執筆された「フラッシュ・メモリの基礎と電源障害に強いファイル・システムの構築」という論文が、技術雑誌『インターフェース12月号』に掲載されました。ぜひご覧ください。

事務局体制の変更 平成17年1月20日付で事務局体制が変更されました。

事務局長 駒井一正(京都電子計算(株))
 事務局長補佐 和田壽郎(京都コンピュータ学院)
 事務局員 奥村良三(留任)



駒井新事務局長